

南方系ヒトデ類2種の和歌山県白浜町の海岸への漂着 Two species of starfish washed ashore at a coast in Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信 (Shin Kubota)
(京都大学フィールド科学教育研究
センター瀬戸臨海実験所)
桧山嘉郎 (Yoshiro Kashiya)
(和歌山県西牟婁郡白浜町)

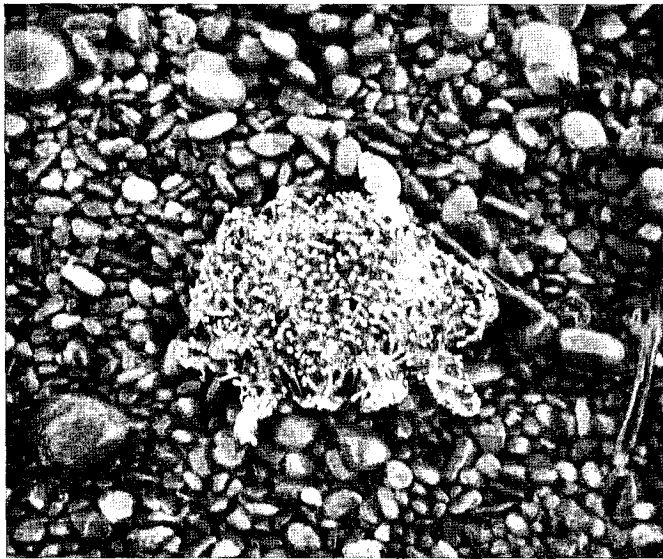


図1.
和歌山県白浜町の中大浜の海岸に2009年2月に漂着した
オニヒトデ *Acanthaster planci* (Linnaeus)

インドー西太平洋を分布中心とする熱帯系のヒトデ類2種が、2009年の春一番などの風波が非常に強かった期日の直後に、和歌山県白浜町の中大浜の海岸(砂浜部の長さは1,300m)に漂着したので記録する。

オニヒトデ *Acanthaster planci* (Linnaeus) は、色彩は失われていないが腕の大半が破損した1個体(間幅長は約61 mm)が、2009年2月14日に死亡漂着したのを久保田が発見した(図1)。これは、瀬戸臨海実験所北浜で2004年8月15日に台風接近による荒天の後に1個体が記録

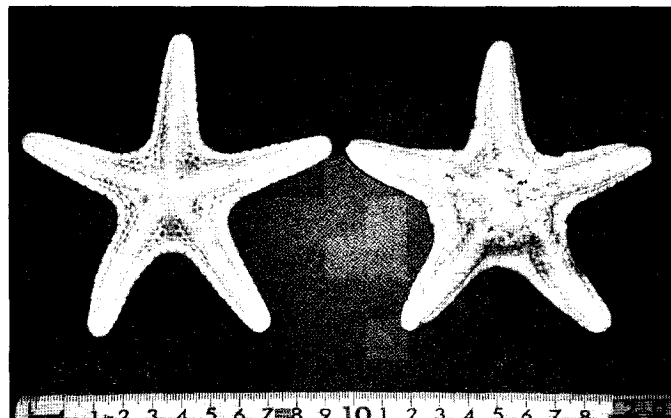


図2. 和歌山県白浜町の中大浜の海岸に2009年3月に漂着した2個体のコブヒトデモドキ *Pentaceraster alveolatus* (Perrier)

(久保田 2006)されて以来の白浜町の海岸への漂着記録である。

一方、コブヒトデモドキ *Pentaceraster alveolatus* (Perrier) は、2009年3月15日と23日の荒天の後に、1個体ずつ死亡漂着したのを桧山が発見した(図2)。2個体はほぼ同じ大きさで(幅長61 mm と60 mm)、色彩は失われていた(標本は桧山が保管)。これは、白浜町に所在する瀬戸臨海実験所周辺の海岸で、過去30年間に、低水温の冬季から初春に衰弱死の直後に打ち上げられた3個体の記録(久保田ほか 2007)に続く漂着記録である。これら計5個体の大きさに大差はなく、幅長20cmにも達する本種の本来の生息地の個体(久保田ほか 2007)の半分程度の大きさである。

以上のことから、上記の2種の南方系ヒトデ類が本年春に相次いで漂着した本記録は、昨今の温暖化の影響により、この類の白浜町沿岸への定着が近年に多少とも促進されていることが示唆される。なお、上記とほぼ同じ大きさの生きたオニヒトデの1個体(多数の腕は傷む)を、和歌山県田辺湾口にある塔島の岩礁、水深1mで、2009年7月19日に再び久保田が発見した。そこは、前回に発見された地点(田名瀬・久保田 1997)とほぼ同じ生息地で、わずか数十m南側の地点であった。さらに、塔島に近い白浜町の瀬戸漁港でも、昨今、大型のオニヒトデが廃棄されているのをよくみかける(久保田 2006参照)。

上記2種が白浜町周辺海域で、今後、定着に至るかどうかにについては、継続調査が必要であるが、京都大学白浜水族館では、近年、地元漁師の網にかかった大型個体なども飼育展示しており(瀬戸臨海実験所 2008)、2種とも白浜町の沿岸で成熟した個体が出現しているのでその可能性がある。

(引用文献)

- ・久保田 信. 2006. 打ち上げ個体も多数発見. In “宝の海から 白浜で出会った生き物たち”. 紀伊民報, 田辺市, 和歌山県, pp. 108-109.
- ・久保田信・桧山嘉郎・田名瀬英朋. 2007. 和歌山県白浜町番所崎および京都大学瀬戸臨海実験所北浜に漂着したコブヒトデモドキ(ヒトデ綱;コブヒトデ科). 漂着物学会誌, 5: 45-46.
- ・瀬戸臨海実験所. 2008. 水族館飼育生物. 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所年報, 21: 27-33.
- ・田名瀬英朋・久保田信. 1997. 22年間の空白後に出現した和歌山県白浜のオニヒトデ(ヒトデ綱,ヒメヒトデ目). 南紀生物, 39(2): 147-148.



会報の原稿募集!

漂着物学会では会報「どんぶらこ」を年間4回発行しています。会報への投稿は、事務局で随時受け付けておりますので、日ごろの成果の発表にご活用下さい。